



『大井川トーロン』が40数年ぶりに大規模に復活！！

送り火を炊いて先祖の霊を送るといった盆供養の行事は日本各地で行われてきておりますが、大井川町（地方港湾・大井川港）では、地元で『トーロン』（灯籠）と呼ばれる伝統行事を、40数年ぶりに大井川海岸で大規模に復活させました。

大井川河口から北側に広がる延長数kmの大井川海岸は、古くから地域住民が前浜として親しみ、憩いの場として利用されてきておりましたが、海岸浸食が激しく、以前は300m程もあった浜が数十mにまで減退し、このため、サンドバイパス、離岸堤、消波護岸による浸食防止対策が図られてきております。

こうした状況の中で、8月15日夜、地域の伝統文化の伝承と昔の海岸の復活の願いを込め、海岸線に並んだ20基のトーロン（5～10mの大型の松明）が点灯され、昔の風景がみごとによみがえりました。



〈大井川海岸に復活したトーロン〉

〔池谷 薫 大井川町長談〕

生命や財産を守ってきてくれた先祖への恩返しと、混沌としたこの時代に夜道を明るく照らすために、地元の人たちの熱意と努力によって『トーロン』を大規模に復活させた。

失われた海岸線は、今後何十年かけても取り戻す決意で取り組んでいるが、海岸事業によって一部戻ってきた浜に、今年、ウミガメが産卵し、地元の人たちを感動させ、公共事業に対する意識も一変させた。



〈大井川町民の踊り“おどらっか”〉